



日	月	火	水	木	金	土
		1	2 中小企業金融公庫出張相談 性感染症予防講演会	3	4	5 九十九島かき食うかき祭り~20日 飼育係おすすめ生き物!展~5月15日
6 サイエンス広場であそぼう! 春のコンテナガーデン作り講習会	7	8 出前保育「みんなよっといでー!」(18日も)	9	10 発明相談	11 建国記念の日 春の植木市~20日	12 動物舎探検隊(26日も) 水族館半日飼育体験(26日も) 天体観望会
13 ツルの北帰行(渡り)観察会	14	15	16 人権を考える市民の集い 市立総合病院の健康教室	17 市民公益活動団体向けの専門研修会	18 講演会「1年生ちゃん、待ってまーす」 まちづくり講演会 タバコ講演会	19 シンポジウム「針尾伊賀守の城」 スピカまつり~20日、郷土研究所の公開発表会
20	21	22	23	24	25 健康ウォーキング大会 相浦愛宕市~27日	26 ペアでクッキング 性教育講演会
27 火の用心チャリティーバザー	28	2月中 西海パールシーセンターの市民無料招待				
毎月第1水曜 中小企業金融公庫出張相談(13~15時、佐世保商工会議所)	3月の主な行事予定 3/1 新入学児童の交通安全教室~4月7日 3/6 ウサギの飼い方教室 心の健康づくりフェスティバル 3/8 子どもにやさしいまちづくり講演会					
毎月第2金曜 発明相談(10時~15時30分、市役所商工労働課。2月は10日)						

テレホンガイド

救急・火災

医療機関案内 ☎23-8199
火災情報 ☎0180-999-999

エイズ相談

専用相談電話 ☎0120-104-783
Eメールアドレス shc783@city.sasebo.lg.jp

教育相談

青少年教育センター ☎22-0077
(毎月第2、4木曜の17時30分~20時30分には、夜間教育相談も受け付けます)

女性相談

スピカ ☎24-6180
(水曜と祝日を除く毎日、9時~16時)

2月の健康テレホン

県保険医協会 ☎23-4300
3分間のテープで、祝日は前日の内容が流れます
月 自律神経失調症 火 痛風
水 子どもの救急シリーズ 嘔吐は危険信号
木 耳鳴りの治療 金 最近の薬物乱用
土、日 女性の頻尿(尿が近い)

人のうごき (1月1日現在)

総人口 238,833人 (-32)
男 112,403人 (-52)
女 126,430人 (+20)
世帯数 93,990世帯 (+62)

12月中のうごき

転入 610 転出 647
出生 198 死亡 193

見て、聞くさせぼ市政だより

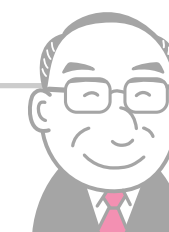
テレビ 毎週土曜日放送(約5分間)

NBC(9時25分) NIB(11時25分)
NCC(11時40分) KTN(17時25分)

ラジオ

NBC 毎週日曜日 9時10分
FM長崎 毎週火曜日 9時05分

長崎新聞 毎月第2、4水曜日広告欄



こんにちは市長です。

父親の授業参観

既に新聞などで報じられていますが、昨年の暮れ、わたしは市内1,900社の社長さんあてに、「子どもを持つ社員の皆さんに、年に一度でよいから授業参観に行ってもらいたいと直接勧めていただけないでしょうか」という趣旨の手紙をお送りしました。

今から4年前、本市では「教育を考える市民会議」を立ち上げました。その折、ある女性の委員から、「今家庭では育児も教育もすべて母親任せになっており、あまりにも母親の責任が重過ぎます」との発言がありました。しかし続けて、「夫がある日『次の授業参観には自分が行くから』と言ってくれたとき、わたしは結婚以来初めて夫に信頼の念を抱きました」と話されました。また一方で、ほかの委員から「本当は父親も授業参観に行きたいのです。でも今の社会は父親が授業参観のために休みをとる雰囲気がないのでは」との意見も出されました。

今回、会社社長の皆さまに授業参観についてお願いの手紙を差し上げたのは、こうした背景があったのです。これが父親の教育参加を進める一つの突破口になればと願っていますが、皆さんはどのようにお考えでしょうか。

佐世保市長 光武 顕

歴史散歩 475

石臼の庭石(城間町)

穏やかな田園風景が広がる宮地区の城間町に、浄土真宗の崇聖山正蓮寺があります。小高い日石岳の尾根を背に、いかにも山ふところに抱かれた寺という落ち着いたたたずまいでした。本堂前の庭の植え込みに、縁石として石臼17個が使われていて、昔の暮らしの息吹をそこはかとなく伝えています。

お寺の前住職、武宮聡雄さん(84歳)によると、昭和20年代から穀物を粉にする石臼が次第に使われなくなり、宮村(現宮地区)に点在する農家の庭先に放置されるようになりました。武宮さんが京都の東本願寺を訪れた際に、東山のお寺の参道に石臼が並べられ、行き来する人たちがさりげなく手を合わせる姿を目にしました。そのことを記憶していた武宮さんは、その後村内に散在する使命を終えた石臼を集め



てきて、本堂前に置いたのです。「石臼は生命のある穀物をすりつぶすために使われ、人はそのおかげで生命をつなく。使命を終えた石臼も粗末にせず、穀物への感謝も込めてお寺参りの都度手を合わせるのです」。武宮さんは朝夕を万物への感謝と祈りの心で過ごした一昔前の時代の

人々の心根を話されました。江戸時代末に書かれた大村藩の「郷村記」には、崇聖寺という古寺を大村藩第20代純頼の元和年中(1615~1624年) 積竜正が再建したとされています。正蓮寺の前身となる崇聖寺は四世智

盛のとき、現在の長畑バス停付近から現在地に移りました。崇聖寺は天

正2(1574)年、キリシタンに襲われ、岡尾張が火中から本尊仏を守った話が残っています。(筒井隆義)

